

わが国のハンドボールにおけるゴールキーパーコーチ養成システムの現状と課題

上嶋亜樹 (202011481、ハンドボールコーチング論)

指導教員：會田 宏、山田 永子、藤本 元

キーワード： GK コーチ資格、GK コーチ養成、GK 育成・強化

【目的】

本研究では、日本ハンドボール協会 (JHA) におけるゴールキーパー (以下 GK と略す) コーチ養成と GK を育成・強化する内容に関する現状を、国際ハンドボール連盟 (IHF)、ノルウェーハンドボール協会 (NHF) および日本サッカー協会 (JFA) との比較を通して明らかにし、わが国のハンドボールにおける GK コーチ養成システムの開発案を実践に提言することを目的とする。

【方法】

(1) 分析対象

JHA、IHF、NHF、JFA のウェブサイト进行分析の基礎資料とした。

(2) 分析の手続き

IHF と NHF の資料に関しては、分析対象資料の全文をテキストデータに変換した後、「Google 翻訳」を用いて日本語に翻訳した。ノルウェー語の翻訳内容が理解しにくい箇所は「Deep L 翻訳」を用いて英語に翻訳し、文章の意味を解釈した。翻訳の精度を高めるために、筆者とハンドボールコーチング論を専門とする教員の 2 名で文章の推敲を行った。

【結果】

(1) GK 育成・強化の理念、コンセプト、考え方

JHA には 18 歳以下の選手を育成・強化するシステムや育成機関があり、その中に GK の内容が組み込まれている。IHF には GK を育成・強化するためのコンセプトなどは資料の中には見られない。JFA には GK に特化したプロジェクトや育成・強化のためのコンセプトがあり、日本が世界で戦っていくために GK の重要性を認識していることが窺える。

(2) 指導者資格および GK コーチ資格の現状

JHA には GK 指導に特化した資格は存在しない。IHF、NHF、JFA には通常の指導者資格に加えて、GK に特化した資格が存在している。IHF には 2 段階、JFA には 4 段階の GK コーチ資格がある。NHF には基礎教育とトップ教育の 2 つがある。

JHA と JFA では通常の指導者資格の講義時間の中で GK の内容が含まれているのは数時間である。GK コーチ資格の講義時間は、IHF は 2 段階とも 40 時間である。JFA はレベルが上がるごとに講義時間が増え、

海外視察などの専門的な内容の講義や講習が存在している。NHF には、時間や条件などの明記はない。

(3) ハンドボールの GK 育成・強化指導内容の現状
NHF の GK の育成・強化には具体性と一貫性がある。具体的内容は 5 つに整理され、特にフィジカルトレーニングを一番多く扱っており、フィジカル面を重要視していることがわかる。JHA は GK の構えやディフェンダーとの連携に焦点を置いたトレーニングが示されているが、年度ごとにテーマが設定されており、それらに一貫性は感じられない。

【考察と実践への提言】

IHF、NHF、JFA には、GK 指導者養成システムの中で GK 指導に関する専門的知識を学修できるが、JHA は通常のコーチ資格しかないので、GK に特化したコーチ資格を作成する必要があると考えられる。

作成にあたっては IHF と JFA を参考にして、12 歳以下のジュニア世代の GK を指導できる「GK-C 級資格」、18 歳未満のユース世代の GK を指導できる「GK-B 級資格」、18 歳以上のシニア世代の GK を指導できる「GK-A 級資格」の 3 つに分け、それぞれの講習時間を 20 時間、30 時間、60 時間とすることが提案できる。

GK の育成・強化内容の目的については、NHF の教育の内容を参考にし、GK-C 級は選手の技術的レパートリーを増やし、既存のテクニックを発展させる方法についての知識を習得することを、GK-B 級は試合やゲームトレーニングにおいて、適切な練習を選択し、効果的に進めるための知識を習得することを、GK-A 級はハンドボール指導の経験を積み、目標とする活動を計画、実施、評価する能力を強化することをそれぞれの目的とすることを提案できる。

GK コーチ資格講習の受講条件は、GK-C 級は GK の指導を行っており、かつ通常の資格の第 1 段階に当たるコーチ 1 の資格を有している者、GK-B 級は GK の指導を行っており、かつ GK-C 級またはコーチ 3 を有している者、GK-A 級は GK-B 級を有している者、コーチ 4 を有している者、GK-B 級を取得後 1 年以上の GK 指導実績がある者などとすることを提案できる。